



創立 1993年12月1日  
 事務局 〒286-0106 成田市取香 500  
 ホテル日航成田  
 TEL/FAXL 0476-24-5044  
 例会場 ホテル日航成田内  
 TEL 0476-32-1144

# 成田コスモポリタンロータリークラブ週報



2024～2025年度 国際ロータリー会長のテーマ  
 ロータリーのマジック

【会長 ステファニー A. アーチック】

成田コスモポリタンRCターゲット  
**Let's enjoy our own club activity!**  
 (我々独自のクラブ活動を楽しみましょう)  
 [会長：横山 英樹]

## 第1446回例会

令和6年7月17日（水）

### 《 会 員 卓 話 》

担当：クラブ運営統括委員会

大和田宜詳 会員・竹内紀之 会員・市原徹也 会員

会場：ホテルマイステイズプレミア成田



◇ 点 鐘 横山 英樹 会長

◇ ロータリーソング 我等の生業

◇ 四つのテストの唱和 市原 徹也 会員



#### ◇ お客様紹介

国際ロータリー第2790地区 2024-25年度 第10グループ

ガバナー補佐 松永 達人 様 (富里RC)

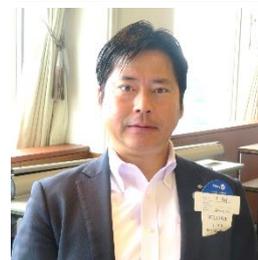
ガバナー補佐幹事 鈴木 久夫 様 (富里RC)

ガバナー補佐幹事 椎名 康之 様 (富里RC)





成田ロータリークラブ 菅 英樹 様



#### ◇ ニコニコBOX

- ・松永 達人 ガバナー補佐 スピーチ無し
- ・遠藤 忠義 会員 スピーチ無し

《新たに1社、ホテルの顧問に就任いたしました。》

- ・池田 和彦 会員 スピーチ無し

《最終例会ではコロナに感染し欠席でしたが、1年間皆勤賞をいただきありがとうございました。例会の出席は少しですがメイクアップをしっかりやっております。》

#### ◇ 会長挨拶 横山 英樹 会長



皆さん、こんにちは。

梅雨とは思えぬほどの暑さが続いています。皆様も熱中症にはくれぐれも留意ください。

皆さんは「地球沸騰化」という言葉をご存じでしょうか。いいえて妙な言葉ですが、昨年7月の平均気温が観測史上最高となる見通しから生まれた言葉で、グテーレス事務総長が発言した言葉です。昨年のギリシャやハワイのマウイ島で起きた大規模な山火事、香港をはじめ世界各地での豪雨被害はその一環と言えます。わが国も昨年の夏は最も暑かったのですが、今年は、それ以上のペースで暑くなっています。今年も地球沸騰が続くのかもかもしれません。

さて本日は松永ガバナー補佐の御出席をいただいております。後程今年度のガバナー方針等をお話しさせていただきますが、ごゆっくりとお過ごしください。

加えて本日は第1回会員卓話例会でもあります。今日は大和田会員と吉岡会員です。大和田会員は職場でしかお会いしたことがない方もいるかもしれませんので、今日のお話は大変貴重かもしれませんね。

また本日は会員卓話の前に今年度地区補助金を申請した、特定NPO法人「Family Partner Chill」の代表である松田様から、事業説明をしていただきます。当クラブが国内の奉仕活動を本格的に支援するのは初めてのことです。6月末に開校した「赤ちゃん食堂」のお話もしていただきますので、是非拝聴ください。そちらのお話に時間を割きたいので、簡単ですが、以上で会長挨拶とさせていただきます。

◇ 委員会報告その他

◇ 2024-25 年度 地区役員委嘱状手交

平野伸一 会員 地区幹事団 地区副幹事長



◇ RLI・FT 養成コース終了書手交

藤崎康人 会員



◇ 幹事報告 城之内 利彦 幹事



- 回 覧：なし
- 例会案内・変更：なし
- その他：7月理事会報告

◇ ガバナー補佐挨拶 第2790地区 第10グループガバナー補佐 松永 達人 様



みなさんこんにちは！私は今年度国際ロータリー2790地区第10グループガバナー補佐を仰せつかりました、富里ロータリークラブ所属の松永達人です。

私のような若輩者が歴史ある第10グループのガバナー補佐を仰せつかるということは非常に恐縮であります。しかしながら自分なりに精一杯第10グループの発展の為に働いていきたいと存じておりますので、皆様一年間ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

今年度ガバナーの寒郡ガバナーは、我が第10グループから輩出されております。そして私も同じ富里クラブに属しており、かねてからロータリーについて教えをいただいております。たくさんの方を学ばせていただき、今のわたくしのロータリーに対する愛情は寒郡ガバナーと出会わなければありえなかったことだと考えております。寒郡ガバナーの方針は、地区チームセミナー、会長エレクトレーニングセミナー、地区研修協議会に参加されている方はご存じだと思いますが、私から簡単に要点をお話しさせていただきます。

まず、ガバナーはロータリーの主役はクラブであり、ロータリアンだということです。最優先に考えるべきはクラブの繁栄であります。しかし、それは世界に存在する他のクラブも対象であるということです。グローバルな視点で見ると当然、国際ロータリーの指針は重要であり世界平和を願う世界で奉仕するたくさんのクラブもサポートしたい、つまり国際的な組織の一員であることに誇りを持つ

てほしいとのことです。このお話には私は非常に感銘を受けました。ほとんどの日本のクラブは地域性が強いものだと考えております。もちろん私もそうですが。しかし国際ロータリーという枠組みで考えると、例えば世界の多くの貧困地域の人々の為に世界のロータリークラブの方々が尽力されている事実やロータリーの最重要目標であるポリオ根絶に向けてワクチン投与に励まれてる方々などを忘れてはいけないだろうと感じております。ロータリーは奉仕の精神が重要だと考えておりますが、それは自分の地域だけでなく普段目にしてない世界の地域に目をむけることも必要だと常々考えております。それこそがロータリーにしかできないことだと考えております。

そして、近年ロータリーで重要度を増している、DEIについてみなさんと深く考えていただきたいと思えます。

簡単に訳すと、ダイバシティ（多様性）イクイティ（公平性）インクルージョン（包括性）であります、これをクラブに置き換えますと、

多様な人材がいてこそ強いクラブがつけられる。

例えば現在では職業分類の規制もないですからお仕事をしていない方でもロータリーに入会できますし、昔はおられなかった女性の方も今ではもっと増やしていかなければならないというようになっていくように、多種多様な人材の方々の仲間にしていく機会があるということです。また、ロータリーでは様々な年代の方々や価値観の違う方々でもお互いに共通のロータリー意識であればお互いに認めあることができるはずだということだと思えます。そして、それぞれの会員が一人一人の違いを理解してお互いに気遣いできる従来からロータリー会員がはぐくんできた寛容の心を再度認識することだと思えます。そしてそのように会員一人一人を包み込むクラブ文化を造成していくことが、会員にとって居心地がよく同じ方向を向いていけることになると思えます。

また、ガバナーはDEIにプラスBというのを考えており、DEIを理解していけばビロング（帰属意識）も育まれる、つまりクラブの一員であることに誇りをもて、先ほどのお話の国際ロータリーの一員であることにも誇りが持てるようになるということです。

もう一点は、会員同士で気づきを得る機会を作っていただきたいということです。それはトレーニングからラーニングへの変化です。例えば従来、PETS（プレジデントエレクトトレーニングセミナー）は会長エレクト研修セミナーでしたが、今年度からPELS。会長エレクトラーニングセミナーという名称も変更されました。PELSの実際の内容も、会長同士、みんなでセッションを行いながら自分の意見を言い合い、お互いにクラブ運営活動の気づきにしていっていったものです。受動的ではなく主体的にということです。クラブでもぜひ、セッションの機会を設けていただき、皆様のそれぞれの考え方を知り合う機会を作っていただきたいと思えます。

最後になりますが冒頭にお話ししたとおり私は今年度、愛する第10グループの繁栄のために少しでも尽力したいと思えます。今年度は、従来のグループで行う、情報研究会を名称変更したラーニングセミナーとIMを行います。また、林ガバナー補佐、鈴木ガバナー補佐と続いている、6クラブ合同セミナーを行いたいと考えております。取り急ぎ、日にち場所が確定しておりますので皆さんにこの場をお借りしてお伝えしたいと思います。まず9月18日に6クラブ合同例会を行います。この日は日中、第10グループゴルフコンペを八街クラブ主催で行い、夜から合同例会を行います。次に情報研究会ですがラーニングセミナーと名前は変わりましたが、11月20日に行います。そしてIMインターシティミーティングは3月12日に行います。それぞれ、6クラブの皆さまが顔を合わせていただき、第10グループの更なる懇親が深められたらと思っております。

また、私は第10グループ内でのメイキャップを促進したいと考えております。どうしてもメイキャップというのはしづらい感覚があるのでなるべく行きやすく、会員相互に交流しやすいグループの雰

困気になっていただきたいと思いますので、各会長と工夫しながらやっつけていこうと思います。

ガバナー補佐としてのお役目は、地区とグループの橋渡し役として、地区からの情報をクラブに伝え、またクラブの要望等を地区に伝えることだと考えております。皆様のご意見、ご要望は、いつでも私に言っていただけたらと思います。また、グループの各会長と密に連絡を取りながら、微力ながら各クラブの運営のサポートをさせていただきたいと思っております。このような未熟者の私ですが、一年間どうぞよろしくお願い申し上げます

#### ◇ 特定非営利活動法人 Family Partner-Chill 代表 松田 あゆ美 様 挨拶



私たちは2022年11月に設立し、成田市を含む印旛郡地区を中心に子育て支援をしている団体です。

活動の目的になりますが、私自身は、児童養護施設と乳児院で15年ほど働いてきました。児童養護施設と乳児院は入所年齢は違いますが、どちらも児童虐待や親の病気、貧困を理由に子どもが入所し生活をする施設です。児童虐待、家族や慣れ親しんだ場所と分離して暮らすことは、子ども達の心身に深刻な影響を及ぼすという過程を目の当たりにしてきました。それと同時に

精神的な不調や貧困、孤立に苦しむ家族の存在もみてきました。

現在、全国的に児童虐待の相談対応件数が増加しており、子どもの貧困の深刻化といった子どもを取り巻く社会問題が顕著になってきています。令和3年度のこども虐待による死亡事例等の検証結果でも、0歳児が最も多く地域社会との繋がりが希薄であったことが報告されています。また、産後うつの疑いがある母親は4人に1人といわれております。

児童虐待の被害にあう以前に、家庭に寄り添う支援が地域に必要であると考え、児童虐待防止に取り組むため、私自身が生まれ育った成田市に目を向けたところ、家庭の孤立や児童虐待、貧困といった課題は成田市にもありました。

市役所、警察、学校、児童相談所、病院などで構成し支援の必要な児童や家庭の情報共有が行われる要保護児童対策地域協議会で把握されている成田市の子どもの数は前年末で652名となっています。日々変動していますが、支援が必要とされる子どもは多くいます。また、支援が必要であっても把握されていない家庭もあると思います。

特に虐待リスクが高い0歳から就園前の児童は、保育園等に所属していない場合であると家庭の状況が把握しづらく、子どもや親のSOSにすぐに気付くことができません。そのような家庭の孤立や地域社会との繋がりの希薄による児童虐待や子どもの貧困を課題と考え、0歳から学童期の子どもを持つ親子を対象におやこの居場所づくりや、家庭へ訪問して育児や家事のサポート、そして今年度より赤ちゃん食堂の開催に取り組んでいます。

この赤ちゃん食堂では離乳食や保護者の食事の無償提供や、ミルクなどの育児用品を無償で提供しています。また、保護者がゆっくと食事をとれる環境を整え、育児の悩みや不安についても相談できるよう保育士のスタッフで運営しています。

この活動がすぐに児童虐待防止の結果に結びつくわけではありませんが、居場所がある、信頼できる子育てのパートナーがいるという環境が地域にあるということで、安心した暮らしを継続するための優しい繋がりのひとつとなるようにと願い活動しています。そして子ども達へ優しい繋がりがあふれる未来のために、私たちの活動がその一助なればと思います。

本日は、貴重なお時間をいただきまして、ありがとうございました。

## 会 員 卓 話

株式会社B U K U 代表取締役 大和田 宜詳 会員



成田で寿司屋をしております大和田です。寿司職人になり 33 年になります。祖父が佐倉市でやまと寿司という寿司店を戦時中から営んでいた事もあり物心ついた頃から寿司には馴染んでました。父親は祖父の跡を継ぐつもりで修行を始めたものの、早朝から毎日魚河岸への仕入れが大変と言う理由、何とも甘い考えで寿司職人は諦め食品関係の仕事に転職しました。食い道楽な所は祖父似で幼いころは寿司その他色々な料理の食べ歩きに連れて行かれました。お陰で少しは舌を肥えさせて貰えたらかな？と今は感謝していますが。祖父は間もなく胃がんを患いやまと寿司は閉店。その頃からあの大和寿司をいつか再建したいと、子ども心にまあ漠然と考えてたと記憶しています。その後、専門学校でマス・コミ関係について学んだのですが都内での生活が性に合わず挫折を体験しました。実家に戻り親戚の始めた寿司屋を手伝う事になり当初の思い通り寿司職人を目指す事になり今に至ります。

私が修行に入った当時の話しをしたいと思います。昭和の寿司屋はお任せスタイルはなかったのが板前さんとの会話を楽しんでいただき好きなネタを食べるのが通常でした。昨今の寿司屋はお任せスタイルが主流になってます。板前はつくるだけ、お客様は食べるだけという傾向です。寿司屋のスタイルも技術も時代と共に変化してます。熟成の文化、肉から始まり魚も今は熟成して食べるようになっております。私の修行時代は鮮度が一番大事だと考えておりましたそこへ魚を昆布で熟成した昆布締めから始まり、白身魚を 1 週間、鮪に関しては一カ月も冷蔵庫に寝かせて熟成させ使えない部位は削ぎ落とす。そんな真逆の料理方になりました。私はなかなか熟成の料理方に考えがついていけないでございました。しかしよく考えてみると寿司の始まりは馴れずしなんです。

寿司は稲作文化と魚食文化の結合により生まれ歴史の変容を経ている事に気がつきました。魚の長期保存食として生まれた「馴れずし」そして新しい寿司文化、魚と飯を共に食べる「生成(なまなれ)」江戸時代にお酢を使う「はやずし」ファーストフードと言うべき「握りずし」寿司文化がすごいスピードで変化しています。この歴史と変化が寿司文化を支えている根本だと私は考えます。またこの少子化の時代に寿司職人を目指す若者がとても少なくなっております。「現代すし学」という本にすし職人の心得としてこう書かれています。

(本から抜粋)

すし職人になるには

すし職人とはすしを握り、お客様にすしを提供することを専門とする職人である。多くの料理人の中でもすし職人はすし飯とすしダネを握るという事に特化した職人である。扱う食材もそのほとんどが生ものであり、それらの見極めやどのようにして調理するかがとくに大切になってくる。すなわち魚といってもその種類や大きさ、さらに同じ魚でもその魚の部位や調理の方法によってもその味は大きく異なってくるからである。したがってすし職人にはよい食材で良い調理をして美味しく食べてもらうという一連の流れの中での感性や判断が求められる。

すし職人になるには二つの方法がある。一つは直接すし屋に弟子入りして働きながら修行を積んでいく方法であり、もう一つは専門学校に通い必要科目を学んでいく方法である。つまり前者は時間をかけて目の前でその技術を習いながら、親方の人間性や社会性を学ぶ方法であり、後者はカリキュラムの中で基礎を学び、実習授業から技術を効率よく学ぶ方法である。両方ともそれぞれ特徴と利点・欠点があるが、いずれにしてもすし職人は効率重視で技術がおろそかになってしまっただけで知識

があっても後々困ることになる。つまりすし職人は社会で働きながら常にしっかりとした経験(修業)を積み重ね、時間をかけてそのスキル(技術)やセンス(感性)を磨き続けていかなければならないからである。

すし屋の世界では昔から「三年かけ出し、五年片腕、十年旅立ち」という言葉がある。最初の三年は皿洗い、出前はじまり、材料の仕込み、お茶汲み、ガリの製法、煮方、光り物の酢のつけ方、魚の開き方、巻き方などを習い、五年目にやっと、つけ台の隅で包丁を使わせてもらえるという。日本料理では、俎板まないたの前に立って切る人がいちばん偉い人であり、だから「板前」という呼び名がついているのである。「片腕」とは、主人が忙しい時、「片腕をかしてくれ」といわれ、主人の片腕分の働きが認められるという事である。以下に高級すし店での修行の大体の目安を記す。

①1～2年＝掃除、かたづけ、洗い場、出前の修行をする。

②2～3年＝①を続けながら、コハダや赤貝などの小ものの開き方を覚える。

③3～4年＝②を続けながら、玉子・煮ものなどを作る裏方や賄い食を作る仕事を覚える。

④4～5年＝カウンター(つけ場)に立つ。出前の巻ものを巻く。穴子、白身魚の仕込みを覚える。

⑤5～7年＝カウンター(つけ場)で、客とのコミュニケーションを勉強する。魚の良し悪しがわかるようにする。すしの器やすしに関する教養を身につける。

⑥7～10年＝教える立場として、職人を指導する。仕入れの仕方をマスターする。経営の勉強を始める。

⑦10年～＝経営者となるか、職人の道を歩むか分かれてくる。

いずれにしてもすし職人にとって個人のちがいはあるにせよ、終わりのない修行の連続であることに変わりはない。またすし店は他の飲食店とちがって客の前で調理する。そして、すし調理師は、つけ場に立った時は製造者であると同時に販売者でもある。したがって調理人の言動や接客態度は店の信用・評判に直接影響を与えるものである。調理師は技術ばかりでなく、言葉づかい・応待、そして身なりまでも気をつけなければならない。すし調理師として、心得るべき点を挙げると次のようになる。

①仕込み、握り、巻き具合、切りつけ、盛り方などの技術力が優秀なこと。

②身なりが清潔で、態度、動作がきちんとしていること。(とくに頭髮に注意)

③手を洗い、爪を切り、自分の衛生管理と環境の衛生管理身につけること。

④職人同士はもちろん、お客さまに対しての言葉づかいに気をつけること。

⑤常識をわきまえ、すし食材の知識を身につけておくこと。

⑥すること。

⑦指輪や時計をはずし、つけ場では絶対タバコは吸わないこと。

つねに向上心をもって技術を磨き、教養を身につけ、「人格者たらんとする心構え」こそ、すし職人の心得の最も大切なことである。

このように今の若者には理解が難しいと思われる心得があります。この考えが寿司職人の減少にもつながっているのかと思いました。Youtubeでホリエモンが寿司の修行に時間をかけるのは無駄なことだと言っていました。たしかに一年の修行でミシェランの一つ星をとる若い寿司職人も出ています。とても考えさせられる事実であります。

しかし初心にかえりこの[すし職人の心得]をつないで行ける若者を探し育て、世界に通用する大切な日本の食文化をとざさないようにすることが事業の繁栄、そして文化の継承になる事と私は信じております。

以前、伊勢神宮の遷宮は、20年に一度、宮づくりの継承のために行っていると聞きました。歴史の深さは違えどもまさに文化の継承をなくしてはいけぬ大事なものだと思っております。

また経営者の皆様が事業は社会貢献するもので無ければならないと話されるのを耳にします。私のような小規模経営の飲食業という仕事が果たして社会貢献という部分をもっているのだろうかと自問してみました。様々な職種、例えば福祉業界とか運送とか製造業のように誰かに直接役立っている実感がなく、生活の中のプラスアルファのサービスで社会貢献という概念は当てはまらないのではないかと。それでも些細な事ではあるけれど、美味しい物を提供し、心地よい場を提供する。そして明日への活力、英気を養っていただく。又、数名のスタッフではあるけれど、その家族を含めてここでの仕事で生活を支えているとそう考えると僅かとはいえ社会への貢献につながっている。そんな気づきが自分で得た自問に対する自答でした。

寿司屋というのは食文化を学び、経営、そして社会貢献をする。なかなか大変な職種であると日々、思い知らされている次第であります。

最後にこの時期に旬を迎える寿司ネタを紹介して終わりにしたいと思います。小肌の稚魚であります新子です。すがすがしい酢の香りを楽しんでもらえる、暑い夏にとっても時期の短い貴重な寿司ネタとなります。サッパリと味わってみるのはいかがでしょうか。8月になりますと早いもので秋刀魚がでまいます。鰹も脂がのった戻りがではじめます。沢山の季節を感じて寿司を味わっていただきたいと思います。是非、大和寿司にお越しく下さい。短い時間でありましたがご清聴ありがとうございました。

## あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

### 千葉成田支店 営業職員特別参与 吉岡 正之 会員



本日の会員卓話は、私の仕事に関して皆様のお耳に入れて役立つような情報をお伝えできればと思います。

本日の横山会長のご挨拶の中でも近年の地球自然環境の変化についてのお話もありました。皆さん報道等でご存じの方も多いかと思いますが、今年10月に国内保険会社全般的に火災保険の改定が行われます。昨今の自然災害の多発化によって基本料率の改定があったため、一言でいえば火災保険が高くなります。建物の構造や築年数によっても変わりますが、特に築25年以上経っているような木造住宅の場合かなりの上げ幅になりますので、火災保険の満期を年明けから来年ぐらいに迎える契約は今のうちに契約内容の再確認をすることをお勧めします。火災保険と言っても実際の保険金請求の割合でみると火災被害での請求額は1割未満で、3分の2は強風被害やゲリラ豪雨、水災といった自然災害での請求です。水災については、「家は高台にあるから」、「近くに川や沼がないから」とあまりご心配されていない方も多いかと思いますが、最近では立地条件に関わらず水災被害が発生することも増えています。例えば自宅にエコキュートやエネファームといった設備がある場合、火災保険の水災の支払い要件に該当しないことが多い床下浸水程度の水嵩でも機械設備に被害を受け、多額の修理費が必要になってしまうケースがあります。各社火災保険にはこのような被害に備える特約もありますので、自宅に設備をお持ちの方はご確認下さい。また、私の担当した事案でも、周囲の畑よりも1mほど敷地が高くなっている貸倉庫の物件でしたが突然の豪雨で排水管の容量を超えた雨水が敷地周囲フェンス基礎のブロックの隙間から畑に流れ込み、その水流でフェンスが数10mにわたって畑に倒れてしまったことがありました。火災保険の水災補償にて対応できましたが、もし水災補償がついていなければ復旧にかかった費用800万円が自己負担となってしまいます。

また、千葉県は地震被害のリスクも想定される地域でもあります。国の地震調査推進本部が作成しているJ-shisという全国地震動予測地図がありますが、これで成田市の今後30年間の地震発生確率

を調べてみました。震度5弱以下は100%、東日本大震災の時と同等クラスの震度5強は98.1%ですので、まず間違いなく発生するでしょう。さらに震度6弱は67.7%、今年1月の能登半島地震と同等の震度6強以上は19.8%とかなり高い確率となっています。震度6強クラスについては、国内のリスクが低いと思われる地域では0.何パーセントとなっていますので、この地域での数字の高さが見て取れます。よく地震保険は掛け金が高いとか思ったほど保険金が出ないという話もお耳にするとと思いますが、考えようによっては自動車事故や火災被害よりも発生リスクの高い最も必要な保険といえるかもしれません。

また、地震保険は住宅や店舗併用住宅などの住宅物件にしか掛けることができませんが、最近では保険会社によっては事業用の建物や設備什器、商品や在庫品の地震被害に対応する特約があります。特約保険料はかなり高額ですが、この特約の利点は住宅の地震保険のように被災程度によって全損や半損といった階段方式の支払いではなく、損害の実損払いとなっている点があります。建物と別に商品・在庫品のみに掛けるような形も取れますので、高額なお酒類や壊れやすい商品を扱っている店舗などは万一の場合の営業補償にもなりますので、ぜひ保険会社に問い合わせてみてください。

最近では国も民間企業の事業継続について力を入れています。中小企業庁では事業継続力強化計画の認定制度を設けていて、こちらの認定を取得すると各種補助金の加点項目となって採択率が上がったり、防災・減災設備導入の税制優遇や信用保証枠の拡大などのメリットがあります。弊社ではこの認定についての無料のサポートも行っています。通常のコソナルや業者に依頼すると10数万円ほどかかることもありますので、特にものづくり補助金等の申請を検討されている会社等がありましたらぜひお声をかけていただければと思います。

以上、まとまらない話でお聞き苦しい点もあったかと思いますが私の卓話とさせていただきます。ありがとうございました。

◇ 点 鐘 横山 英樹 会長

☆ 本日の料理



◇ 出席報告 \*メーキャップは前後2週間です。

	日 付	会員数	免 除	出 席	欠 席	M U	出 席 率	補 正 出 席 率
前々回修正	7月5日	68名	8名	33名	22名	7名		64.52%
本日例会	7月17日	68名	8名	34名	24名	4名	61.29%	

・成田コスモポリタンロータリー・クラブ事務局

〒286-0106 成田市取香 500 ホテル日航成田内 TEL/FAX 0476-24-5044

・例会場 ホテル日航成田内 TEL 0476-32-1144 FAX 0476-32-0022